

『自分で考える税金の使い道』

練馬区立田柄中学校

二学年 山本 耀子

私は疑問に思った。練馬区の未来は大丈夫なのか。なぜならば、最近知った「ふるさと納税」という制度があるからだ。これで、居住地とは異なる地域に税を納めることができる。

私の母は、「ふるさと納税」で過疎地域と呼ばれる村に寄附をしている。「ふるさと納税」とは、任意の自治体に対して寄附をするという形でその地域に貢献する制度だ。これのメリットは主に三つある。一つは応援したい自治体を選ぶことができることだ。自分の出身地に限らず、複数選ぶことができる。二つ目は、使い道を選択することができることだ。提示されている使い道で「これだ。」というものを選ぶ。三つ目は、貢献することでお礼の品がもらえる。地域ならではのものがもらえるので地域それぞれの個性を知れる。

私の母は、「馬路村」に寄附している。この村は、高知県で人口が二番目に少ない村だ。その一方で、「日本で最も美しい村連合」に加盟している。そんな村に寄附をしたら贈られてくるのが、馬

路村の有名な「ゆずポン酢」である。それはクセになるほどおいしい。私が思うに、母はそれ目当てに寄附をしているのではないか。その大々的な例がテレビでやっていった。

Aさんは、社長ぐらいのお金を稼いでいる。そのため、納税の額も人より多い。それを生かして、たくさん地域に寄附をして、お礼の品だけで食生活をしている。私は、それは違うと思う。このようなことだと、支援するというよりは、自分の生活のためにやっているのだから貢献とは言えないと思う。たくさんメリットがある一方、このような人が増えるのはデメリットだと思う。

では、私の居住地である練馬区はどうだろうか。今現在、練馬区から十六億円の税金が流出していると言う。これは、区民のために使われる税金が十六億円も減っているということだ。例えば、十六億円があれば保育園を五カ所整備でき、三十億円があれば小学校を改築できるという。この例から、目に見えて影響が出ている。

今年、私は練馬区の税金を使って海外派遣に行かせて頂いた。この税金が減るということは、私ができなかった体験を後輩たちはできなくなってしまいかもしれない。

大人は目先のことだけ考えて税金をどこに入れるか考えているように思える。少しの自由は認められているからよいと思う。しかし、自分の地域の公共サービスも考え、後世にその考えを継いでいってほしい。まだ、私は税を納めることができる年齢ではない。でも、消費税は自動的に払っている。今年から消費税が10%に上がる。少し痛いところもあるが、公共のため払うのに意味があると思う。将来、税金を納めるようになってから、しっかり考えて納税したいと思う。